

書く活動を通して学習参加を促す教師の手立て

加賀美咲（富山大学）・黒田卓（富山大学）・成瀬喜則（富山大学）

概要：本研究では、中学校の授業の「書く」活動を対象にして、生徒が主体的に取り組む授業に求められる教師の手立てについて考察した。「書く」活動を取り入れた授業の導入、展開、まとめの各段階における生徒の主体的な取り組みの促進につながる教師の手立てを複数の授業実践から分析し、表形式でまとめ、可視化することで、若手教師の授業力向上に寄与することを目指した。

キーワード：書く活動、主体性、意欲、授業づくり

1 はじめに

文部科学省中央教育審議会の審議のまとめ(2016)では、これからの子どもたちに「主体的に学び続けて自ら能力を引き出すこと」、「多様な他者と協働したりして、新たな価値²²を生み出すこと」を求めている。また、平成26年度版文部科学白書(2014)では、「教育におけるICT（情報通信技術）の活用は、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や子供たちの主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）を実現する上で効果的であり、確かな学力の育成に資するもの」と指摘している。

各学校でも様々な研究や実践が始まっている。その中で、自分の考えを持つことができず、グループ学習に主体的に参加できない生徒がいるという問題点も明らかになってきている。

これに対し、富山県総合教育センター(2016)は、学習者が自分の考えを持ち、整理する活動の重要性を指摘している。また、吉川(2016)は、すぐに考えを決められない子に、書くことが有効であると考えている。また、短く書かせることで、気軽に、頻繁に、表現する力をつけることができると述べている。

自分の考えを持ち、表現することができれば、グループ学習でも生徒は主体的に自分の考えを伝えることができるようになる。グループ学習を効果的に行うことができれば、学習者は他者

の考えや学習の仕方に触れることができる。そのことで、新たな考えの形成や自分の表現方法の確立にもつながる可能性がある。

本研究では、学習者の主体性を引き出し、グループ学習を成立させるための基盤となる「書く」活動に焦点を当てる。そして、書く活動を通して生徒が主体的に学ぶための教師の手立てについて考察する。

2 研究の方法

2016年4月から2017年7月の期間に行われた7つの授業を対象（国，社，理，技，家，美）に授業を記録し、教師が授業で実践していた書く活動を抽出した。さらに、授業指導案（国，社，理，技，美）からも、書く活動を抽出し、授業記録から得た知見に加えた。

また、意欲についての先行研究を調べ、生徒が抱くどのような感情が、学習意欲の変化につながるのかについて整理した。

3 結果

授業の導入、展開、まとめの各段階において取り組まれた書く活動について、その活動を通して高められる学習意欲を考察し、下山(1985)の意欲の分類表を参考に、表1にまとめた。授業参観、授業指導案等をもとに行われていた活動を整理し、教師が各活動を取り入れた意図を考察し、分類した。

表1 書く活動と学習意欲の関連

	活動		興味・知的 好奇心	学習 価値観	目的 意識・必要 感	有 能感・向上 感	達成 感・充実 感
導入	学習記録	年間の学習テーマを書き留める		○			○
	基礎基本	各種の確認テスト 漢字練習、計算練習				○	○
	目標	考えたいことを書く 学習課題を書く	○		○		
展開	思考	自分の考えを書く 予想を書く	○		○		
	整理	図や絵を描く 点数をつける 丸で囲む、線を引く ワークシートを埋める	○				○
	助言	友達へのアドバイスを書く・選ぶ		○	○	○	○
	小まとめ	中間まとめを書く 考えの変化を書く	○		○	○	
	表現	黒板に考えを板書する 俳句、グラフ、作文など各種の活動					○
	気づき	考えをメモする グループの考えを書く	○				○
まとめ	まとめ	最終的な考えを書く 考えの変化を書く				○	○
	理解	学習の理解度を書く				○	○
	意欲	楽しく学習できたか振り返る					○
	完成	作品などを完成させる		○			○
	目標	次の目標を書く	○	○			
	復習	確認のまとめテストを行う				○	○

4 考察

対象とした授業における書く活動を分析した結果、導入部では既習事項の復習を取り入れ学習内容を定着させる活動や個人の学びたいことを書かせる活動が行われている。目標を明確にする活動を行うことが生徒の学習意欲を引き出す一助となると考えられる。

展開部では課題に対する自分の考えを書かせる活動やグループで個人が持ち寄った考えをまとめて整理する活動、友達の活動の成果に対する評価や改善点などの助言を学習者が相互に書いて渡す活動が行われている。これらの活動は、学習意欲の持続につながると考えられる。特に学習者が相互に活動を評価し合う活動を取り入れると、学習者は友達のために頑張ろうと目的意識をもって活動できる。さらに、自分の助言が役に立ったという達成感や学習に対する価値を感じる可能性がある。このことから展開部では学習者相互がともに学び合う活動を取り入れることが学習者の学びにつながると考える。

まとめの部分では、授業を受けての自分の考えをしっかりとノートやワークシートなどに記入させる活動が行われている。学習者は本時の学習を振り返ることができ、学習者の中で達成感や次の学習への期待が生まれる。

若手教師が授業を設計する際に、表1を参考に、生徒の主体性を引き出すためには授業の各段階でどのような活動を取り入れることが有効なのかを考えることの助けとなる。

5 まとめと今後の課題

授業記録および先行研究、既存の授業指導案等から、書く活動と学習意欲の関連を分析し表形式でまとめた。現時点では、対象とした授業や指導案の事例数が十分とは言えず、完全な分析には至っていない。

また、表の分類の仕方でもまだ改善の余地がある。今後は表をさらに充実させることが必要である。若手教師は経験年数の多い教師に比べ、授業準備に時間がかかる。教材を作る視点も限られている。作成した分類表を元に、若手の教師が授業設計や実践に活用できる教材やワークシート、ノート案等の資料を作成することで、若手教師の授業づくりの支援になると考える。そのため、上記の資料の作成にも取り組みたい。これらを行い、書く活動において生徒の学習参加を促す教師の手立てを探っていきたい。

参考文献

- [1] 吉川芳則(2016), 授業づくり, 学級づくりの勘どころ, 三省堂, 東京.
- [2] 文部科学白書(2014), 第11章 ICTの活用の推進, http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201501/detail/1362043.htm (参照日 2017. 8. 7)
- [3] 文部科学省中央教育審議会(2016), 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shinngi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/09/1377021_1_1_11_1.pdf (参照日 2017. 8. 9).
- [4] 下山剛(1985), 学習意欲の見方・導き方, 教育出版, 東京.
- [5] 富山県総合教育センター(2016), 一人一人の生徒が主体的・協働的に学ぶ学習の在り方に関する調査研究—ICT活用によるグループ学習の支援—, 研究紀要第35号:29-76.